

石川県

画面越しからの一歩

「若いうちに日本から一度出て世界を見て
みる経験をするべきだ」と思いますが、全国の
高校生にこう質問すると多くの人がするべき
だと答えるだろう。私たち学生はニュースや
学校の授業などで世界の様々な出来事に日常
的に触れている。「アフリカで内戦が起こっ
ており子供たちが兵士として戦争にかりださ
れています。」「世界には食料がなく飢餓で年
にこれだけ多くの人が亡くなっています。」「テレ
ビの画面越しに、スマートフォンでの画面越しに
私たちは世界の問題を目にするが、多くの人は、
この平和な日本と同じ地球で実際にこんな
ことが起こっている実感が湧かないだろう。
私もその一人だった。小学校の頃にはアフリカ
のやせ細った子供の写真を見せられたのを今
でも覚えていいる。世界には同じ年齢でも学校
に行けず水をくみに行っている子供たちもい
るのだと教えられ、自分ば恵まれた環境にい
て毎日家族と一緒に飯をおなかいっぱい食べ
られることは幸せなんだと純粋に思った。しか

し年がたっについ画面越レにそいった現状
を見る機会も増えてゆき、世界の問題が
日常的に流れてくるニッスの一環になつて
しまつていた。そんな私が世界をリアルに感
いたりはインドネシアに旅行へ行つた時の事
だった。私の叔父がその時インドネシアに滞
在しており、私は家族と共に彼のマンション
に泊まつた。日本から出てインドネシアへ行
き、初めてインドネシアの現状を知つた。マ
ンションには銃を持つた警備員がおり、夕ク
シは危険だからと言われ移動する時は必ず
叔父のドライバーさんの車に乗つた。私達バ
観光を終えてマンションに帰る頃には夜の十時
頃になつていたが、町の子供は裸足で走り回
つていた。車の中にいる自分、道で座りこん
でいる現地の人々、同じインドネシアにいて
はかなのに全く別の場所にいるようだった。
その時初めて自分の国はものが発達してゐる
先進国で私はそこからやつて来た観光客でし
かなんだという事を思い知らせた。

私たち昨日、口にしてゐるものは一步外へ出
小は高級品になり、友達と遊びに行く娯楽の
場は未知の場になるのだらう。今まで画面越
しに見てきた世界が一気に現実になつた。
こゝで書くインドネシアはとても危険で何
がおきるか分らない。同じ様に世界を見るに
行けるとすれば、ヨーロッパやアメリカなど
に行きたゝ、と思う人がゐるかもしれない。
しかし決してインドネシアは危険な国である
だけではない。そこに住む人々はとても優し
くて温かい気持ちになれる国なのだ。私が飛
行機を降りて入国審査をする時、彼らは笑顔
で話しかけてくれた。他の国にも行ったこと
があるが、先進国であればあるほどその審査
は厳しく、にこりともしてくれない。長旅で
疲れてゐた私はその笑顔でとても幸せになつ
た。入国審査のゲートを通り抜けた時には私
はもうこの国のことを好きになつてゐた。親
切にしてくれたのは彼らだけでない。警備犬
をついた黒人の男の人、犬を触わつてゐる間

に仲良くなつたし、ドライバーの人も優しく接してくれた。現地に滞在した一週間私は世界の深刻な現状を知ると共に彼らの温かさに触れた。

私はインドネシアを訪れた後、バトナムにも訪れる機会があったが、そこで私は日本人との大きな違いを見つけた。インドネシアやバトナムの人はとにかくよく話す。これは特にベトナムに行つた時に思つたのだが、私達をホテルまで送り届ける二時間ほどの間、ずっとガイドのひとと運転手さんは話していった。

日本だつたりどうだろう。私達はバスの中で電車の中で友達や家族といてもスマートフォンを見て互いに話すことは少ないのではないかと。技術は日本に及ばなくとも人と人とのつながりを大切にしている彼らをすてきたと思つた。画面越しでは伝わりない世界の厳しい現状とその裏にある温かさ。私達は出来事だけを目にし、現実を知らない。私は一歩外へ飛び出す事が本当の世界を知る第一歩だと思ふ。